修文大学紀要　投稿規程

（名称）

第１条　修文大学紀要編集委員会規程第１条に基づき，本誌の名称を修文大学紀要（以下，紀要，英文誌名はBulletin of Shubun University）とする．

（投稿資格）

第２条　投稿できる者は，専任，非常勤の身分に係わらず，原稿募集公告時に本学に籍を置く者でなければならない．但し，共著者の場合，論文筆頭者以外はこの限りではない．

（投稿論文の採否）

第３条　論文の採否及び掲載欄の決定は，査読員の意見を参考に編集委員会が決定する．採択に際し，投稿者に内容の追加・修正，論文の種類の変更を求める場合がある．

２　査読員は２名とし，編集委員会が依頼したものがあたる．但し，査読員のうち，１名は投稿者が指定することができる．

３　論文の修正等のため，編集委員会から原稿を返却された場合は，修正箇所等を明示した修正原稿を30日以内に編集委員会に提出しなければならない．無断で期日までに提出されなかった場合は，投稿を取り下げたものとみなす．

（論文の種別）

第４条　論文は，和文または英文とし，自然科学編，社会科学編および人文科学編を設ける．論文の内容は未発表のものに限る．

２　論文の種類は，総説（刷り上り６頁～10頁），原著（刷り上り５～７頁），研究ノート（刷り上り３～５頁），その他（刷り上がり１～４頁）とし，基準は次のとおりとする．

総説：ある主題に関し，研究，論文等を総括・解説したもので，原則として編集委員会から依頼されたもの．

原著：独創的な研究で，新しい事実と価値ある結論を有するもの．

研究ノート：新しい事実や価値あるデータを含む短い報告で，公表することにより学界に寄与するもの．

その他：食品・栄養指導，看護・保健等，業務上あるいは個人活動から得た経験で報告に値するもの．

（原稿の執筆要領）

第５条　原稿は別に定める執筆要領に従うものとする．

２　原稿は印刷された冊子体３部（このうち２部は査読用）とともに，電子媒体に保存されたファイルを提出する．電子媒体は，使用機種名，ソフト名，バージョン及び投稿者がわかるようにして提出する．

（倫理的配慮）

第６条　ヒトを対象とした論文は，世界医師会総会において承認されたヘルシンキ宣言（1975年）な

Presented by Medical*Online

らびに文部科学省・厚生労働省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」あるいは他の適切な指針に則って行われた研究でなければならない．また動物を用いた研究は，「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（平成25年環境省告示第84号）」を遵守して行われたものでなければならない．

（費用等）

第７条　投稿料は無料とする．原稿料は支払われない．抜刷の配布はしない．

（著作権）

第８条　著作権は本学に帰属するものとする．投稿に際しては，当該論文の著作権および電子情報化などの二次的使用に関する権利が本学に帰属するものであることについて，著者全員が同意しているものとみなす．

（速報版の本学ホームページ上での掲載）

第９条　査読終了後，採択となった論文について，投稿者が希望する場合は，確定版として紀要に掲載されるまでの間は，速報版として本学ホームページに掲載することができる．

（規程の改廃）

第10条　この規程の改正または廃止は，教授会の意見を聴いて，学長がこれを行う．

附則

１．この規程は，平成21年３月18日から施行する．
２．この規程は，平成24年11月15日から施行する．（一部改正）
３．この規程は，平成28年６月16日から施行する．（一部改正）
４．この規程は，平成29年６月15日から施行する．（一部改正）
５．この規程は，令和３年８月４日から施行する．（一部改正）

Presented by Medical*Online

修文大学紀要　執筆要領

（令和３年８月４日改定）

1　投稿論文の仕様

1.1　用紙はＡ４判とし，縦長に置き，上下左右に各３cmの余白を設け，12ポイントの大きさで35字×30行（1,050字）を横書きする．頁数と行番号を記載する．和文フォントは明朝体で全角，英文およびアラビア数字のフォントはTimes New Roman体で半角とする．

1.2　投稿論文の構成と提出部数

投稿論文の構成は，⑴紀要投稿用紙，⑵表紙，⑶要旨（和文もしくは英文），⑷本文，⑸表，⑹図（写真を含む），⑺資料（表・図・写真の説明原稿）とする．

提出部数は，印刷原稿３部（このうち２部は査読用）と電子媒体（USBメモリーもしくはCD）１個とする．

投稿者は投稿原稿の完全な控えを手元に保存する．なお審査の過程で変更があった場合は，それらの控えもすべて保存する．

2　投稿論文提出先

様式にしたがって必要事項を記入して提出する．原稿は事務局教務課職員あてに提出する．

3　紀要投稿用紙

投稿用紙に必要事項を記入する．原稿の種類は投稿者が希望するものを記載する．表題は和文・英文ともに記載する．著者は投稿規程を確認し，全員署名する．キーワードは５個以内とし，和文・英文ともに記載する．投稿原稿の本論及び資料の頁数などを記載する．連絡先は内線番号および連絡の取れるように数か所記載する．

4　表紙

4.1　表紙には和文および英文で表題，著者名を書き，所属，キーワード５個以内（日本語），脚注，欄外見出しの順に書く．

4.2　欄外見出しは，著者名（姓のみ，２名の場合は併記し，３名以上の場合は「筆頭著者の姓･他」とする）に続いて，題名を20字以内にまとめて書く．なお，欄外見出しは「研究報告」の表紙題名としても使用される．

4.3　共著者の所属が筆頭著者のそれと異なる場合は，３つまでは順番に共著者の氏名の右肩に「*」「**」「***」を付け，４つ以上の場合は*１，*２，*３，*４…とし所属（著者の正式な所属機関名）と対応させる．内容に関する質疑，別刷り請求等のための連絡先代表者を指定する場合は，当該氏名に「§」を付け（「*」等があればそれに続ける），脚注と対応させる．

4.4　脚注には著者の所属機関の郵便番号と住所を書く．なお，連絡先代表者を指定した場合，「連絡先（Corresponding author）」と書く（メールアドレスを付記してもよい）．

5　要旨

5.1　要旨は和文では400字程度，英文では200語程度（研究ノートは100語程度）とする．また，和文の総説，原著および研究ノートには和文要旨と共に英文の要旨を追加記載する．その他は，英

Presented by Medical*Online

文要旨を必要としない.

5.2　英文要旨の体裁は，題名に次いで３行あけて著者名（名，姓の順とし，先頭文字のみ大文字とする），所属機関名および住所，所在地，次に１行あけて要旨本文を書く.

5.3　英文要旨では研究の目的, 方法, 結果および結論を述べ, 英文キーワードを５個以内で付ける.

6　本文

6.1　本文の構成

6.1.1　原著

本文の構成区分は原則として緒言（記述に当たっては「緒言」という見出し字句は用いなくてもよい), 方法, 倫理的配慮（方法に含めても良い), 結果, 考察（「結果および考察」としてもよい), 結論，謝辞（必要な場合），文献の順とする.

記述に当たっては, 構成区分の見出し字句の前後は１行ずつあけ, 見出し字句は行の中央に書く. 構成区分中の大見出し，中見出しおよび小見出しは，それぞれ１，２，３，……，１），２），３），……，ⅰ），ⅱ），ⅲ），……のように順次区別する.

中見出しまでは見出し字句をつけ，改行して文章を書き出す．小見出しは見出し字句をつけ，改行して文章を書くことを原則とするが，見出し字句のあとに「：」をつけて改行しないで文章を続けてもよい．見出し字句の最後にピリオドはつけない.

6.1.2　研究ノート

構成区分見出しを必要とせず，緒言（記述に当たっては「緒言」という見出し字句は用いなくてもよい)，大見出し以下の区別で記述する．大見出しの見出し字句は原則として，直接必要な事項の字句を見出しとする．結論は大見出しにより，文献のみは構成区分見出しとする.

6.2　原稿の書き方

6.2.1　文章および文字

文章は平易かつ簡潔な「である」調とする．英字，数字は原則として半角とする.

6.2.2　専門用語は原則として文部科学省学術用語審議会編「学術用語集」による．略語又は記号を用いるときは，最初に用いる箇所で正式名称を書き，括弧内に略語や記号を示す.

6.2.3　化合物名は原則としてIUPAC（国際純正応用化学連合）命名法に従い日本語で書く．本文中では化学式を用いず，名称を用いて書く．長い化合物名の場合は，6.2.2に準じて略語を用いてもよい．また，化合物の名称として，一般に使用されるものを用いてもよい.

6.2.4　外国の人名，会社名などはアルファベット表記とする．ただし，例のように，周知の術語となっている人名はカタカナ書きでもよい．人名には敬称をつけない.

〔例〕ケルダール分解法，フェーリング液など

6.2.5　本文中に図，表を引用する場合，図，表が英文で書かれている場合はFig.1，Table 1とし，和文で書かれている場合は図１，表１とする．挿入位置を原稿用紙の右余白に指示する.

6.2.6　物理量の記号および使用上の規約はなるべくIUPACの勧告に従う.（「物理化学で用いられる量・単位・記号」（(社）日本化学会標準化専門委員会監修，朽津耕三訳，（講談社サイエンティフィク，東京）(1991)，要約版は，化学と工業，42(3)，498-506（1989)．以下「IUPAC手引き」と略称）を参照する.

6.2.7　動植物名は「文部科学省学術用語審議会編：学術用語集－動物編，植物編－大日本図書」「園芸学会編：園芸作物名編－養賢堂」などを参照し，カタカナ書きとする．学名は，属（第１字目

Presented by Medical*Online

を大文字とする），種，変種，亜変種の部分をイタリック書体とする．
動植物体の加工品は，原則としてひらがなまたは漢字を用いる．

6.2.8　微生物の名称および用語については「日本細菌学会用語委員会編：最新版英和和英微生物学用語集（菜根出版，東京都千代田区平河町ト8-13和田ビル）」などによる．また微生物の学名は，例のようにイタリック書体の印刷指定記号をつける．

〔例〕
微生物の属名のみを記載する場合
Aspergillus sp.
属・種名を記載する場合
Aspergillus oryzae
亜種・変種などを記載する場合
Bacillus cereus var. *mycoides*
特定の菌株などを記載する場合
Escherichia coli K-12

6.2.9　酵素の分離精製，諸性質の解明および応用に関する論文では，対象酵素の酵素番号および系統名を必要箇所に記述する．酵素番号および系統名は国際生化学連合（I.U.B.）酵素委員会報告“Enzyme Nomenclature Recommendations（1984）of the Nomenclature Committee of the International Union of Biochemistry, Academic Press（1984）”に準拠する．

〔例〕グルコースイソメラーゼ（E.C.5.3.1.5，D-Xylose keto-isomerase）
論文で用いている酵素名が系統名と異なることから，酵素番号と系統名を記述する．
〔例〕トリプシン（E.C.3.4.21.4）
論文で用いている酵素名が系統名と同一のため，酵素番号だけを記述する．

6.2.10　数および数式については，6.2.6の「IUPAC手引き」を参照する．

6.2.11　本文中の脚注は原則として用いないが，やむを得ない場合には本文中の項目の右肩に*，**を用い，例のように書く．

〔例〕
（本文）○○○○○○*，○○○……・…・・…・
（脚注）*○○○○○○○○……・・……・……

6.2.12　印刷上の活字の指定が必要な場合は，初校の段階で赤字で明確な指示を行う．

6.2.13　本文原稿は欄外にページをつける．

7　図，写真および表

7.1　図と表は最小限にとどめ，同一内容のものはいずれか一方とする．

7.2　図・写真と表は，Ａ４サイズに原則ひとつずつとし，１点（Ａ４判1/2）につき500字換算とする．英文で図と表を作成する場合は，本文と独立して内容が理解できるような説明文を簡潔に書く．

7.3　図および写真

7.3.1　全ての図は，同一縮尺となるように調整し文字も印刷されたときを考慮し，大きさに気を付ける．印刷された文字の縦長が1.5mm以下とならないようにする．グラフの縦軸の説明文字や物理量／単位は下方から上方へ向かって，横軸のそれは左から右へ横書きとする（ただし，目盛の

Presented by Medical*Online

数字はこの限りでない).

7.3.2　写真はデジタルデータを用い，Ａ４判1/2に出力する．白黒，カラーのいずれでもよい.

7.4　表

7.4.1　表は原則としてＡ４判を用いる.

7.4.2　表の題名は，表１又はTable 1として表の上部に，説明などの注記は下部に書く．英文の場合，表題および表中の語句は最初の文字を大文字とし，以下は小文字とする.

8　文献記載様式

文献は本文中引用個所に順次片括弧をつけた番号を入れる．文献を再度引用する場合は同じ番号をもちいる．文献番号は上付き文字とする．文献は引用文献のみとし，本文の後にまとめて文献として記載する.

Ａ雑誌の場合

(1)　著者名（共著の場合は３名まで表記し，それ以外は他とする．英文はet al. とする）

(2)　論文題（省略しないで記載する）

(3)　雑誌名（省略形の表示のある雑誌は省略形を用いる）

(4)　巻数

(5)　号数（必要な場合には（　）を付けて表示する）

(6)　ページ（初めと終わりを記入する）

(7)　発行年（西暦）

〔例〕

１）伊藤要子，相原真理子，小栗隆他：血管内皮細胞の温熱耐性とヒートショック蛋白（HSP70）. 日医放会誌，54：1187-1189，1994.

２）Feder MF, Hoffmann GE: Heat-shock proteins, molecular chaperones and the stress response; evolutionary and ecological physiology. Ann Rev Physiol, 92: 351-366, 1999.

Ｂ単行本の場合

(1)　著者名（雑誌の場合と同じ）

(2)　書名（版次）（編集本の場合は編集者名を付す）

(3)　引用ページ（初めと終わりを記入する）

(4)　発行所

(5)　所在地（国外のみ）

(6)　発行年（西暦）

〔例〕

１）藤田尚男，藤田恒夫：標準組織学各論第３版，pp.124-125，医学書院，1992.

２）Hendy GN, Arnold A: Molecular basis of PTH overexpression. In: Principles of Bone Biology, 2nd ed, Bilezikian JP, Raisz LG, Rodan GA, eds, pp.1017-1030, Academic Press, San Diego, 2002.

9　その他

刷り上がり１頁は，本文の場合，2,100字程度，図表原稿の場合，４枚に相当する.

著者校正は一度だけ行う．英文要旨および英文で書かれた図表については，英文校閲をすませているので，これに従う.

Presented by Medical*Online

10　倫理的配慮

投稿原稿の内容が倫理的配慮を必要とする場合は，必ず「方法」の項に倫理的配慮や研究対象者への配慮をどのように行ったかを記載すること．倫理審査委員会の承認を得て実施した研究は，承認した倫理審査委員会の名称，承認年月日及び承認番号を本文中（方法）に記載する．

11　利益相反

当該研究遂行や論文作成に際して，企業・団体等から研究費助成，試料提供，便宜供与などの経済的支援を受けた場合は，謝辞等にその旨を記載する．

〔付記１〕物理量とその記号

1.1　物理量の記号は，論文ごとに定義を明示してから用いる．記号はラテン文字又はギリシャ文字の１字（ただしpHは例外）とし，必要な場合に添字（ラテン文字，ギリシャ文字，アラビア数字，ローマ数字から選ぶ），その他の記号をつけることができる．

1.2　物理量の記号は，イタリック体（斜体）で印刷するが，添字についてはそれ自体が物理量を表わすときはイタリック体とし，そうでない場合はローマン体（立体）とする．

1.3　物理量の値は，数値と単位の積である．物理量およびそれを表す記号は，特定の単位の採用を意味するものであってはいけない．（例：“長さをＪとする”は正しいが，“cmで測った長さをＺとする”は誤りである）

1.4　物理量の記号は6.2.6の「IUPAC手引き」の２章に記載されているものについては，できるだけこれに準拠する．記載されていない物理量の記号は，1.2の原則に従ってなるべく慣用されているものを用いる．

Presented by Medical*Online